

第7回生乳の需給等に係る情報交換会 説明資料

令和6年9月
農林水産省畜産局牛乳乳製品課

生乳取扱量等の見通し (令和6年度)について

生乳取扱量・牛乳等仕向け量の見通し（令和6年度）

- 生乳生産量の見通しは、分娩のズレ等の影響により、**年度後半は生産が対前年を上回る見通し**。
- 牛乳等向け処理量の見通しは、おおむね対前年同水準だが、**11月以降、不需要期に入ることから、年末以降の加工（特に脱脂粉乳・バター向け）の増加が見込まれる**。

【R6年度生乳取扱量】

(千トン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①Jミルク予測（生乳生産量）	635	656	616	613	603	590	612	590	619	628	577	647
（対前年同月比）	(101.1%)	(101.0%)	(99.5%)	(99.4%)	(102.1%)	(102.9%)	(102.4%)	(102.0%)	(101.6%)	(101.2%)	(97.1%)	(100.2%)
会議メンバー（見通し）	621	643	617	621	602	586	605	585	612	620	570	633
会議メンバー（実績）	621	641	603	592								
（①との差）	(△ 14)	(△ 14)	(△ 13)	(△ 21)								
（参考）生乳生産量	635	656	616	606								

【R6年度牛乳等仕向け量】

(千トン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
②Jミルク予測（牛乳等向け処理量）	311	330	331	332	317	336	338	312	302	308	290	309
（対前年同月比）	(98.3%)	(98.5%)	(100.0%)	(99.5%)	(100.1%)	(100.3%)	(100.1%)	(99.4%)	(99.5%)	(99.6%)	(96.8%)	(100.5%)
③うち道外移出量	33	38	45	57	54	64	57	43	40	36	34	34
（対前年同月比）	(104.9%)	(100.1%)	(97.7%)	(110.5%)	(112.1%)	(105.5%)	(107.2%)	(106.0%)	(112.1%)	(100.1%)	(102.4%)	(117.5%)
会議メンバー（見通し）	303	320	322	328	315	330	329	309	296	304	291	303
うち道外移出量	36	42	50	54	49	64	55	44	39	40	37	37
会議メンバー（実績）	303	318	322	317								
（②との差）	(△ 8)	(△ 11)	(△ 9)	(△ 15)								
うち道外移出量	34	38	46	49								
（③との差）	(+1)	(△ 0)	(+1)	(△ 8)								
（参考）牛乳乳製品統計（牛乳等向け処理量）	311	330	331	326								
うち道外移出量	33	38	45	51								

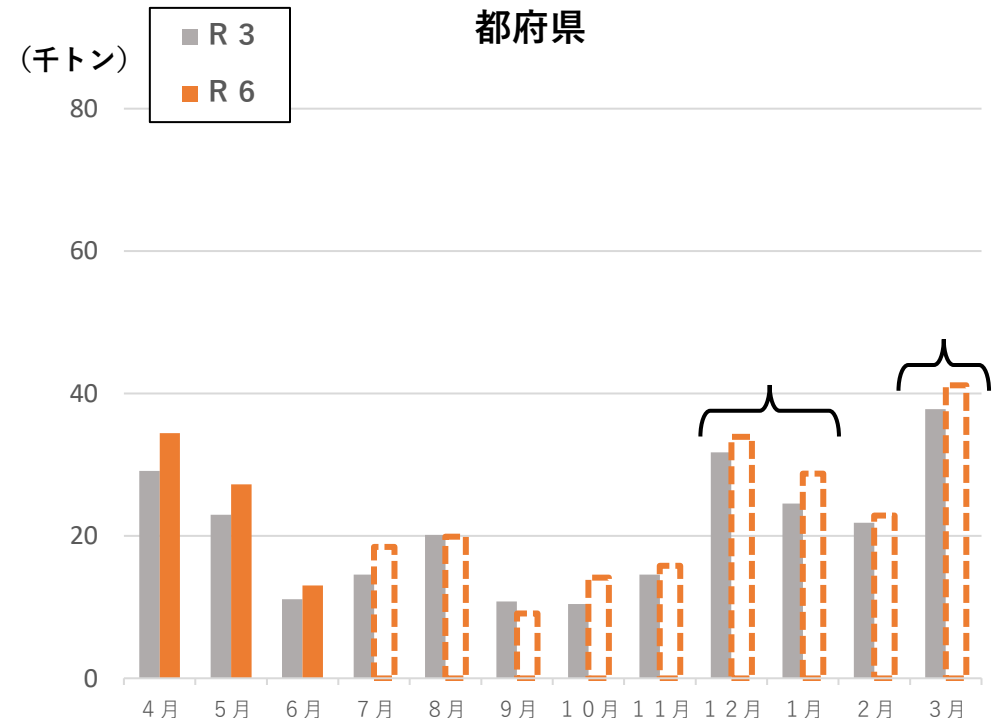
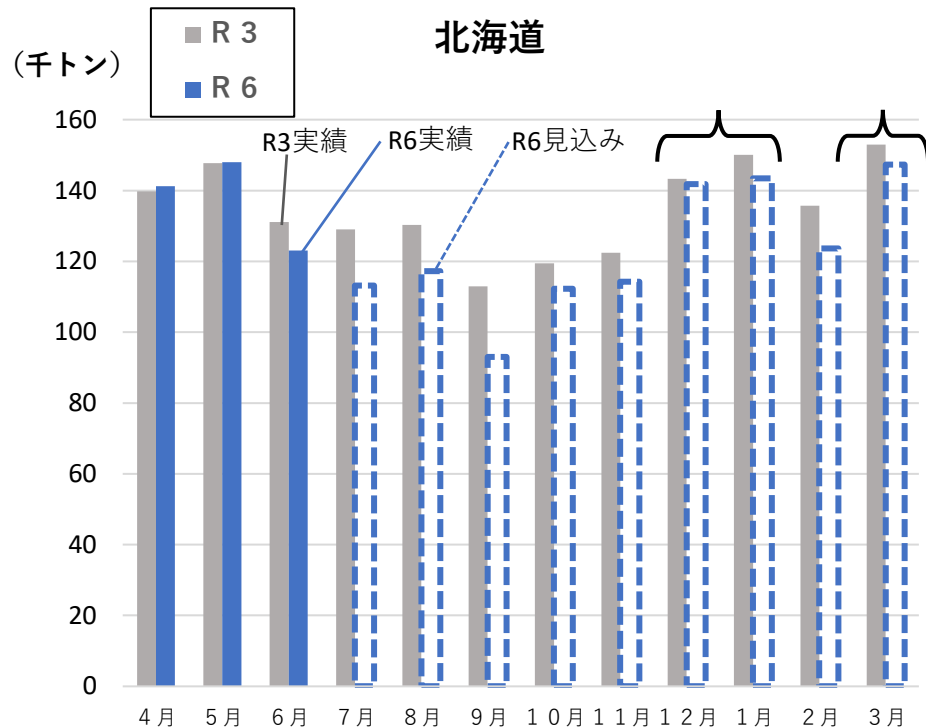
（参考）生乳生産量・データ：農林水産省「牛乳乳製品統計」

（参考）Jミルク予測：2024年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について（2024年7月30日公表）より引用

脱脂粉乳・バター向け処理量の見通し（令和6年度）

- 年度後半の令和6年度の脱脂粉乳・バター向け処理量は、近年最も生産量の多かった令和3年度を、北海道では下回るが、都府県では上回る見通しであり、今後の需給動向に注意が必要。
- 精度の高い見通しを全体で共有し、必要な場合には、特に不需要コア期（牛乳処理量が低下する長い休みの期間）に大量の投げ売りがされないように協調して取り組むことが重要。

○脱脂粉乳・バター向け処理量（R3年度・6年度）



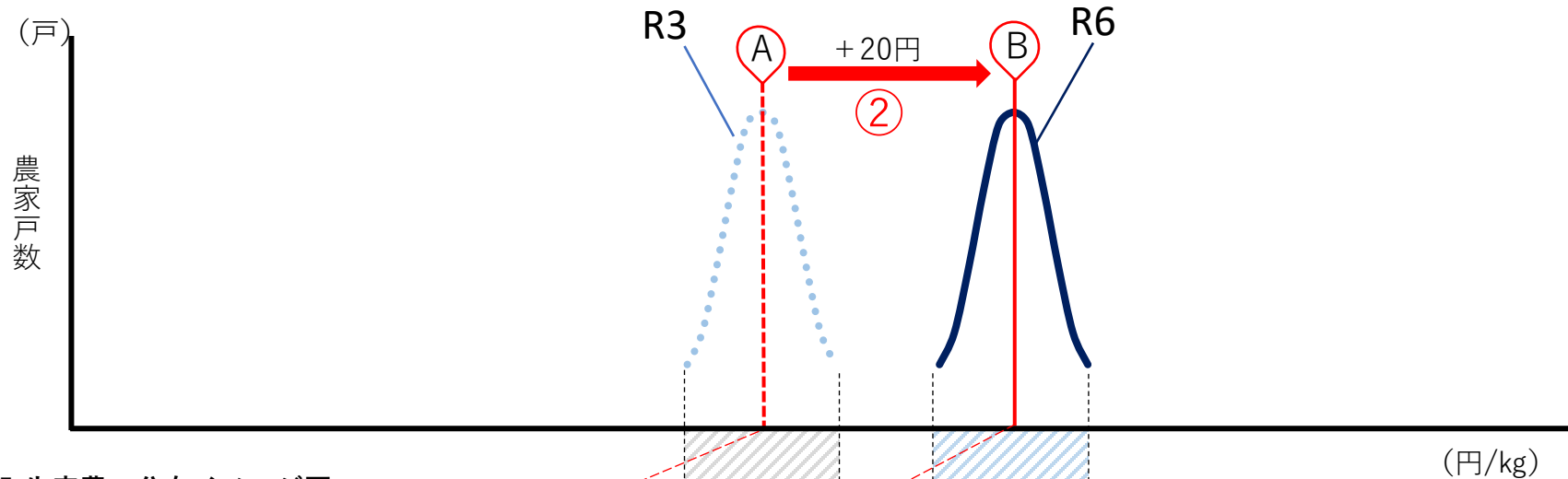
資料：Jミルク需給見通し（R6.7公表）、牛乳乳製品統計

飲用牛乳の価格構造について

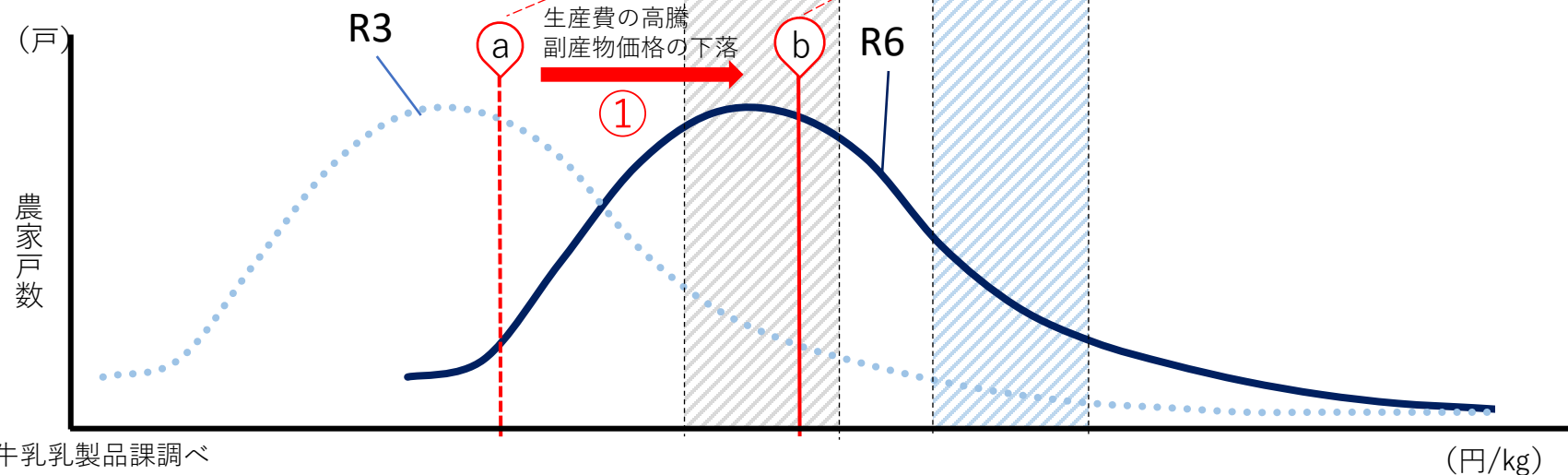
○令和4年度以降の生産費の高騰や副産物価格の下落によって全算入生産費（※）が急騰したことを受け、計4回の乳価引き上げが行われ、生産者の受取乳代も上昇した。

※生産費総額から副産物収入を除いた価額

■受取乳代の分布イメージ図

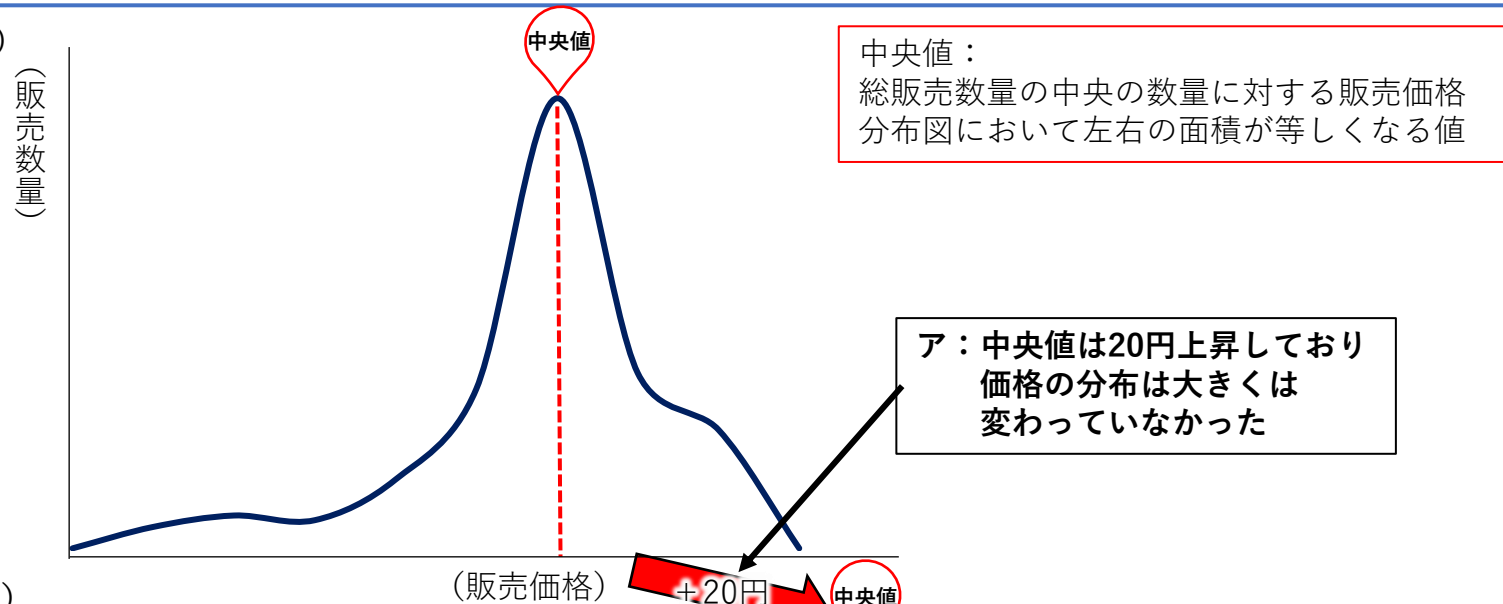


■全算入生産費の分布イメージ図

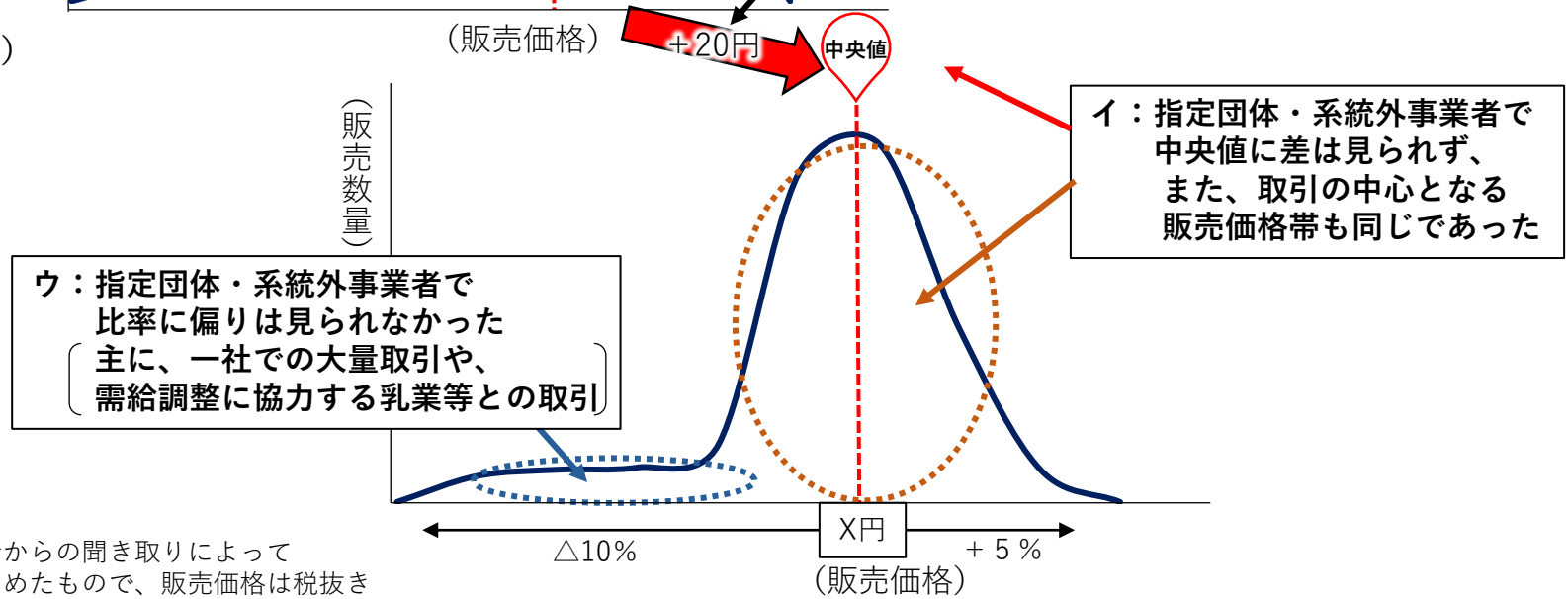


- 各事業者から聞き取った牛乳向け生乳の販売価格帯別販売数量を基にデータを作成し、別に把握している数値と照らし合わせ、データの整合性を確認。
- 価格全体の分布は大きく変わらず（下図ア）、指定団体・系統外事業者で見ても中央値に差はみられなかった（下図イ）。また、低い価格帯内の偏りも見られない（下図ウ）。

■2022年（4～6月）



■2024年（4～6月）

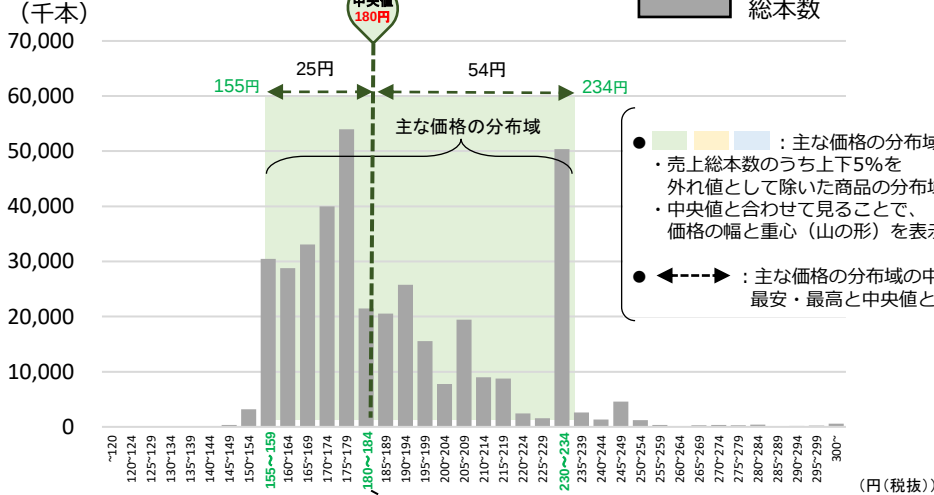


牛乳(成分無調整)の購入価格帯(税抜)

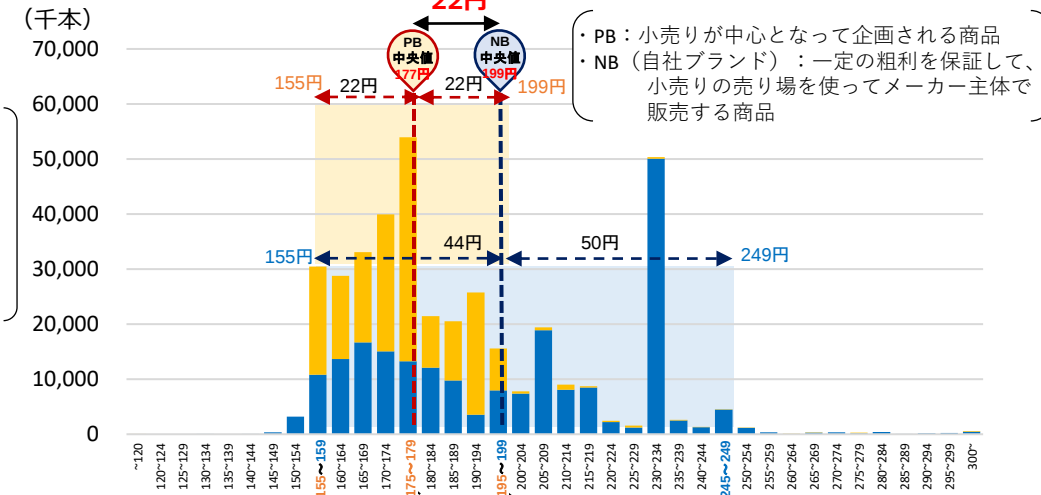
小売⇄消費者

- 2022年11月以降の飲用向け乳価の引上げ後、小売価格への価格転嫁は進んだものの、総購入本数は減少（左図）。
 - 価格転嫁の状況は一様ではなく、結果的に、主な価格の分布域が広がるとともに、価格の重心が安い方に移動（左図）。
 - PBとNBに分解すると、PBのシェアが拡大するとともに、PBもNBも価格の重心が安い方に移動（右図）。
- 他方、NBは価格転嫁に苦戦し、価格の重心は大きく安い方に移動。結果、PBとNBとの価格差（中央値の差）が縮小（右図）。

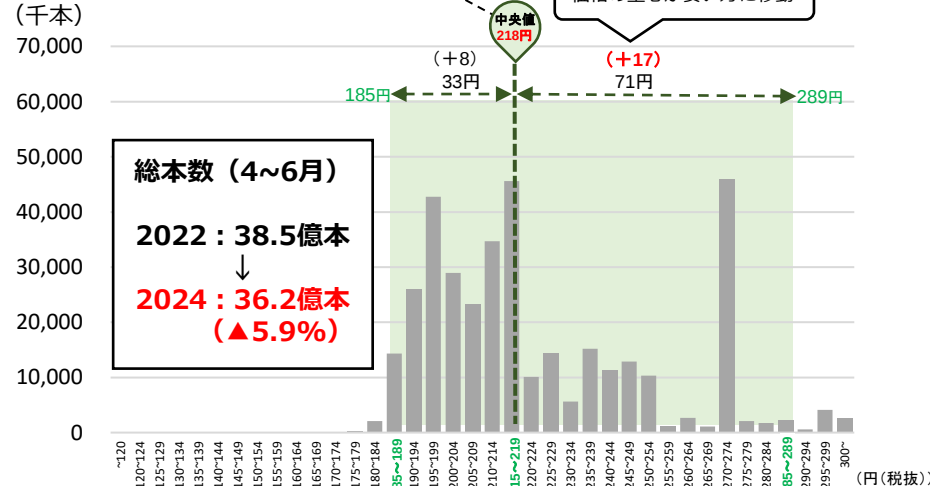
■ 2022年（4～6月）



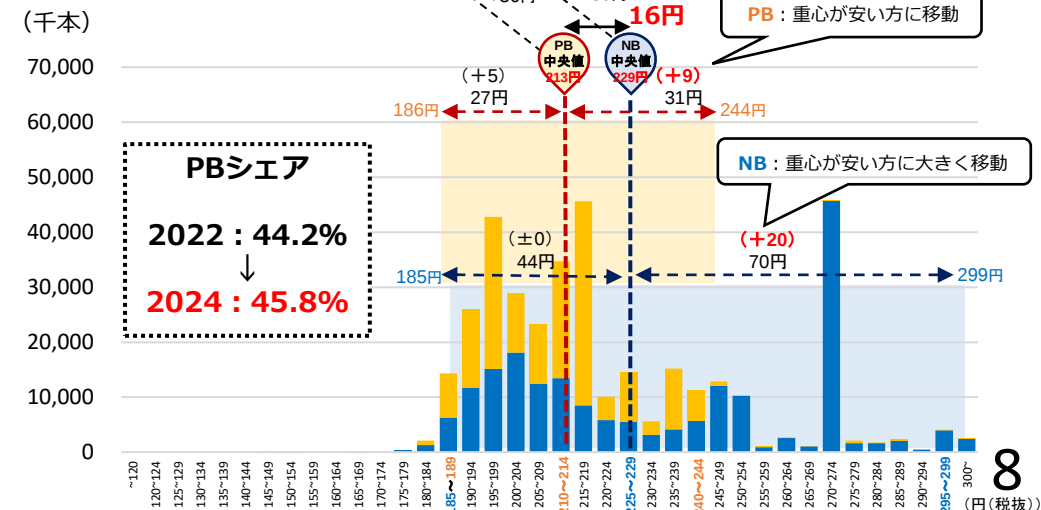
■ 2022年（4～6月）



■ 2024年（4～6月）



■ 2024年（4～6月）



生乳流通事業者⇔乳業（小売）⇔消費者

➡牛乳の小売価格の差は、原料乳価の差よりも、主に物流・販売費用等の差により生じている模様。

■牛乳（成分無調整）の価格構成（2024年4～6月）

価格帯（円）

300円

200円

100円

低価格製品 185円

中心的な価格の製品 218円

高価格製品 289円

① 100円

+ 30%

中央値

△15%

②

+ 5%

中央値

△10%

ウ:原料乳価と小売価格の分布・量からすると、PBの大半は中央値付近の原料乳価により作られている

イ:高い小売価格が必ずしも高い原料乳価により、もたらされている訳ではない

ア:小売価格（①）の幅は、牛乳向け生乳販売価格（②）よりも、はるかに大きい

牛乳の小売価格（小売⇒消費者）

価格分布イメージ

PBが多く占める価格帯

牛乳向け生乳販売価格（原料乳価）（指定団体・系統外事業者⇒乳業）

価格分布イメージ

牛乳の小売価格（小売⇒消費者）

出典：インテージ SRI+ 2024年4～6月 平均販売価格・販売本数

牛乳向け生乳販売価格（指定団体・系統外事業者⇒乳業）

出典：牛乳乳製品課調べ

出典：牛乳乳製品課調べ

出典：牛乳乳製品課調べ（価格はいずれも税抜）

需給安定に必要な取組について

需給安定に必要な取組、主な意見及び今後の整理

需給安定に必要な取組

1 個体乳量の季節変動に応じた、生乳の年間安定取引。

2 牛乳の投げ売りを防止するための、不需要期を中心とする加工仕向け先の確保・拡充。
用途別取引を前提として、牛乳仕向けで生じる余乳は加工に仕向けることが原則。

3 脱脂粉乳・バターの跛行性や牛乳の消費減少等の構造問題についての対応。全国的な対策への関係者の参加。

左記の各取組に対しては、賛同、又は異論なし。以下、主な意見。

○委託契約の履行確認の精度をこれまで以上に高め、出荷状況を確認する必要。
○(一部事業者では)年間を通じて安定した数量となるよう分娩頭数を調整する取組を進めている。

○ピーク時の余乳処理調整は加工が可能な乳業各社の協力が不可欠。
○加工仕向けは国内需要の確保が難しいので、輸出も視野に入れていくことも必要。

○全国的な対策には関係者全員が参加するのが本来の姿。
○全国的な対策の今後の姿。
→脱脂粉乳を飼料用に仕向けるのみではなく、飲用牛乳と脱脂粉乳の需要拡大が重要。

今後整理していきたい内容

・契約内容とその履行の精緻化(個体乳量の季節変動に応じた日別・週別の取引量を契約に明記)
・契約数量を超過した場合プール乳代と分けて計算

・加工施設の稼働率の向上にも資するよう、一定の条件(※)の下、施設利用の融通に向けた関係者の協議が進むような環境の整備
※施設枠が空いている、年間通じた取引 等

・北から南までの多様な関係者が持続的に参加する環境の整備